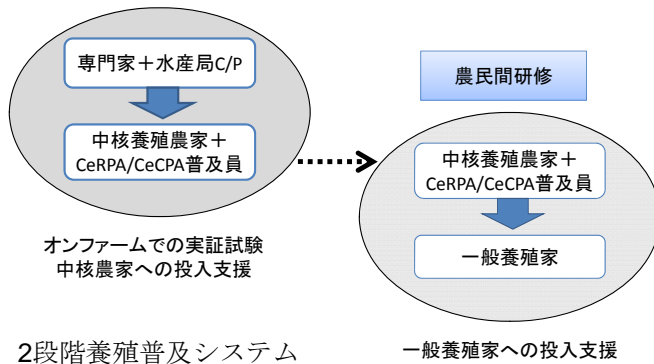


農民間研修

プロジェクトでは養殖普及の持続性と効率性を重視しています。そのため、意欲のある民間養殖家を種苗生産や普及の中核として育成し、その中核養殖家の経済的インセンティブを引き出す農民間研修という手法による民間ベースでの養殖普及を提案します。ベースライン調査結果を踏まえ、プロジェクト対象地域(南部7県)から15名前後の中核養殖家を選ぶ計画となっています。

2段階養殖普及システム

専門家から中核養殖家、中核農家から一般養殖家という2段階からなる普及システムを試み、ベナンにおける適用性を検証します。ここでは、中核養殖家育成過程および農民間研修に水産普及員も参加することで、普及員の能力向上とプロジェクト終了後の普及体制の持続性を目指します。



適切な養殖普及教材の作成と導入

ベナンでは養殖技術に関する教材が極めて少ないのが現状です。本プロジェクトではJICAのこれまでの経験を生かし、識字率の低い農民にもわかる絵や図を中心としたマニュアルやカレンダーなどわかりやすい教材を作成し普及に活用します。

技術課題への取り組み

対象種の種苗生産、養殖飼料、養殖魚管理、収穫などの技術課題を改善するための取り組みも進めます。実証試験は中核養殖家、水産普及員との共同で主にオンファームレベルで行う計画です。

プロジェクトの概要

実施機関

ベナン国農業畜産水産省
国際協力機構(JICA)

実施期間

2010年5月～2013年5月 (3年間)

プロジェクト対象地域

南部7県(リトラル、アトランティック、プラトー、ウエメ、モノ、クフオ、ズー)

ターゲットグループ

対象地域において内水面養殖に興味を有するグループ、人

上位目標

プロジェクト対象南部7県において内水面養殖が普及する。

プロジェクト目標

プロジェクト対象市において養殖家戸数が増加する。

成果

1. 内水面養殖技術、農民間研修に関するマニュアルがまとめられる。
2. 内水面養殖研修を実施できる中核農家及びCeRPA/CeCPAの水産普及員が養成される。
3. 農民間研修によって一般養殖農家が内水面養殖に関する基礎的知識を習得する。
4. プロジェクトから水産局に対し中核養殖家・一般養殖家の自立かつ持続的な養殖事業運営を促進する活動が提案される。

プロジェクト事務所

Direction des Pêches
Akpakpa, Cotonou, BENIN
Tel 21 33 15 51
Fax 21-33-59-96



LE PROJET DE VULGARISATION DE
L'AQUACULTURE CONTINENTALE
EN REPUBLIQUE DU BENIN

ベナン内水面養殖普及プロジェクト



ベナン国農業畜産水産省
水産局



Japan International
Cooperation Agency
国際協力機構

プロジェクトの背景

ベナンの漁獲量は年間約40,000トンですが、国内漁獲量だけでは需要を満たすことができないため、約45,000トンの水産物を輸入しています。加えて2008年に893万人と推定される人口は、年率3%以上の増加率が続いていることから2012年には1000万人を超えると予想され、水産物の生産増大に対するニーズは益々高まっています。

また、ベナンは海岸線が120kmと短いのに対して奥行きが700km近くあります。この南北に長いという国土事情から、内水面からの漁獲は総漁獲量の80%を占めていますが、資源の過剰開発のため、その漁獲量は減少または横ばい傾向にあります。このような内水面漁業の状況からも、内陸部に広がる淡水域・汽水域の有効利用、すなわち魚の養殖による水産物増産への期待が高まっています。



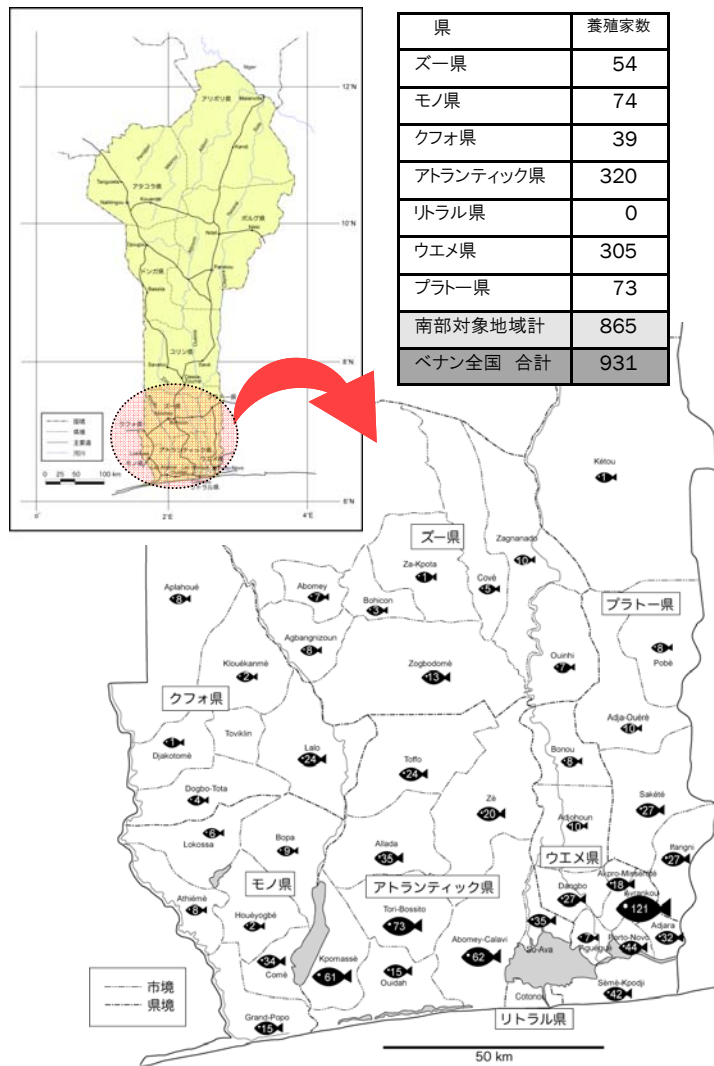
2008年のJICA開発調査のパイロットプロジェクト
ラロ市の養殖池からの収穫

一方、2008年の全国養殖センサスによると、ベナンの養殖家数は931戸、養殖総生産量は159トンという低水準にあり、内水面養殖はいまだ極めて限定的にしか実施されていません。養殖家の90%以上はズー県以南、さらに南部地域の中でもコヌやポルトノボといった大消費地に近いアトランティック県とウエメ県に集中しています。

こうした状況の中、JICAは内水面養殖振興を目的とした開発調査「内水面養殖振興による村落開発計画調査2007-2009」に引き続き、2010年から養殖普及プロジェクトを開始することになりました。

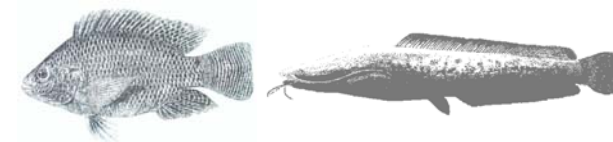
プロジェクトの目的

プロジェクトではベナン国南部7県(リラル、アトランティック、プラトー、ウエメ、モノ、クフォ、ズー)での、①内水面養殖技術の確立、②水産普及員及び中核養殖家の養成、③農民間研修による養殖家の育成、④養殖家の自立的な事業運営の促進に資する活動を行うことにより、養殖家戸数の増加を図ることを目的としています。



ベナン南部 各県の養殖家数 (2008年)

養殖対象種



ティラピア

Oreochromis niloticus

ナマズ

Clarias gariepinus

ベナンの養殖家

現在、ベナンの内水面養殖のほとんどは個人が副業的に行っている池養殖で、養殖対象種はティラピア(ナイルティラピア)とナマズ(アフリカナマズ)2種類が一般的です。池養殖には各種水源を利用してそこから水路を引き下流側の複数の養殖池に給水する重力灌漑タイプ(給水池)と浅い地下水位を利用した溜池タイプ(湧水池)があります。また近年では都市近郊でも可能なナマズのタンク養殖も実施されています。



谷地田(Bas-fonds)近くにある
溜池タイプ養殖池



都市近郊のタンク養殖

さらに近代的な循環式水槽を導入した商業養殖経営体も活動をはじめています。



商業養殖経営体(ロワイヤル
フィッシュ社)の循環式水槽



ハッパネットでのティラピア種苗生産